

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500094
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホームひまわりのたね
所在地	伊予郡松前町昌農内347-1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けています。利用者様のできることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行くようにしています。利用者様の笑顔がみられるよう、精一杯の努力をしたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年4月に開設した事業所は田園に囲まれ、静かで季節の移ろいを感じる。特に麦の実りの頃は一面が黄金色に輝き、窓から素晴らしい景色を眺めることができる。事業所の近くには中学校や郵便局があり、生徒や地域住民の往来も多くみられる。事業所のある建物には小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、既に町内で運営しているグループホームの経験を活かしながら地域との交流に努めている。管理者は経験豊富で「利用者のペースに合わせてのんびり過ごすことができ、1日1回でも大きな声で笑えるように支援していきたい。」と考えており、職員が一丸となって利用者の日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりのたね

(ユニット名) 桃

記入者(管理者)
氏名 松田加代子

評価完了日 27年2月22日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 焦らず、怒らず、諦めずの理念を基本に優しい介護の実践に努めている。	
			(外部評価) 法人の理念を基にして、開設時に職員間で話し合い、事業所独自の理念を作成している。理念はリビングに掲示し、日々の業務の中で職員同士で確認し合っている。また、カンファレンスで振り返りを行い、共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設の行事に地域の方をお招きし、地域の行事には利用者とスタッフが参加できるよう努めている。 散歩のときなど地域の方に「お疲れさん」と声をかけていただくこともある。	
			(外部評価) 自治会に加入し、回覧板で地域の行事などの情報を得ることができている。気候や天気の良い日には事業所周辺へ散歩に出かけ、地域住民と挨拶や会話を交わしている。事業所で初めて開催した夏祭りに地域住民に参加してもらったり、クリスマス会には小学生の訪問があったりするなど交流を広めている。どんと焼きなどの地域行事に参加したり、地域の防災訓練に参加協力もしている。また、民生委員の紹介で利用者と一緒にサロンに参加するなど、積極的に交流するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の中で、スタッフが利用者の介護を行うことが認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、ホームの活動報告と活動計画、事故など様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上にいかせるよう心掛けている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、区長、民生委員、町担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。会議では、事業所の活動内容や行事予定を報告し、参加者と意見交換をしている。今後管理者は会議への家族の参加を呼びかけ、事業所の取組み等について意見をもらい、サービス向上に活かしたいと考えている。	会議には一人でも多くの家族に参加してもらい、利用者の生活状況や事業所の取組みの理解を促し、家族の立場から積極的な意見をもらい、サービス向上に活かせる取組みを期待したい。また、勤務シフトを工夫するなど順番に職員が会議に参加し、学びの場としても活用されることを期待したい。さらに、多方面からの意見をもらえるよう近隣住民など幅広く参加を呼びかけたり、参加できなかった方にも分かりやすい議事録を作成したりする取組みを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村とは連絡を密にし、困ったときは助けていただいている。	
			(外部評価) 町保険課や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に毎回参加し、情報交換をしている。開設して約1年のため、介護保険制度など不明な点がある場合には町担当職員に確認し、助言をもらうなど協力関係を築けるよう努めている。地域包括支援センター主催の「プチ自慢大会」に参加を予定している。また、毎月介護相談員の訪問があり、利用者と話をしてしたり事業所内を見たりして意見をもらうこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員全員が理解できているとはいえ、今後勉強会をする必要がある。2階であり、戸口の向こうに階段があるため、場合によって入口の施錠をしている。	
			(外部評価) 事業所は建物の2階にあり、フロアを出てすぐに階段があり危険なため安全面を考え施錠することがある。管理者は介護業務の経験の浅い職員がいるため、職員全員で身体拘束について理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいくことを考えている。	職員全員で身体拘束の内容と弊害を理解するため勉強会を実施したり職員間で話し合いをしたりするなど、身体拘束をしないケアへの取組みを期待したい。また、利用者の安全面を配慮しつつ、見守りを強化するなど自由な暮らしを支援するための工夫をすることを望みたい。

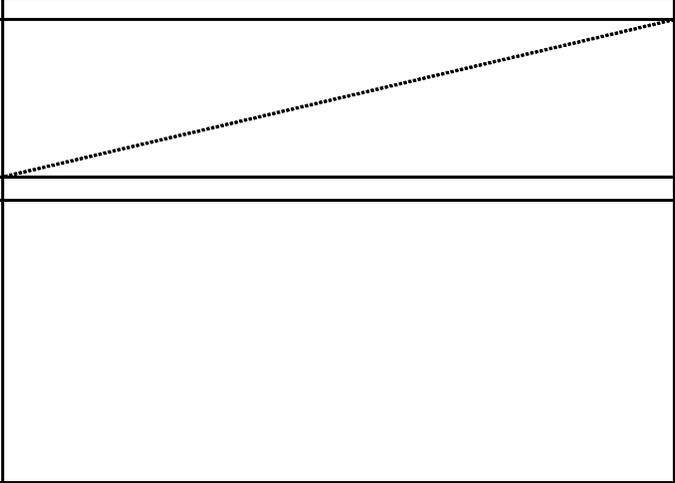
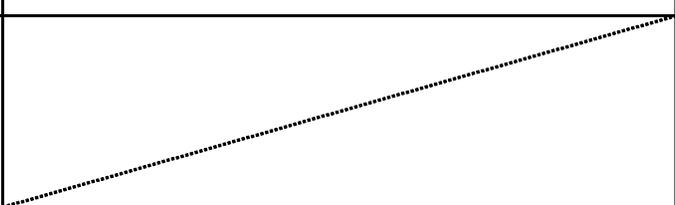
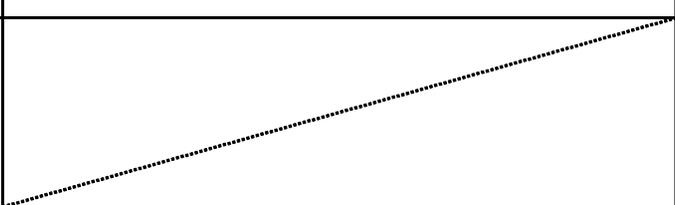
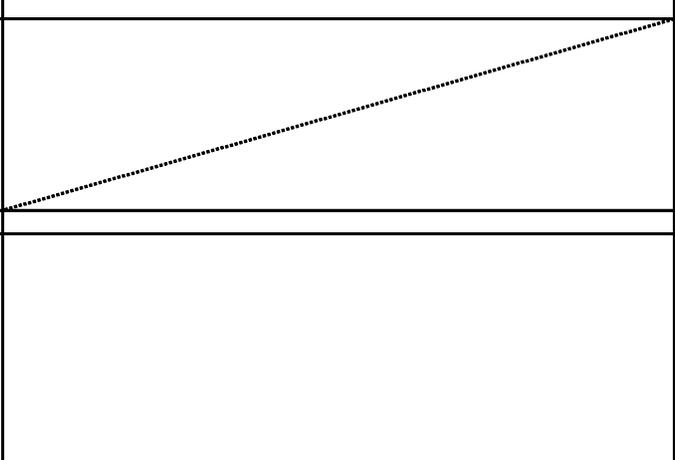
自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できているとはいえないが、職員間で防止に努め、虐待や不適切な対応はない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がなく、難しい問題であり今後学習していく予定。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行いご理解いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望については、施設内で速やかに対応するよう心掛けている。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけて利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くよう努めている。必要に応じて家族に電話する時にも意見や要望を聞いている。家族から出された意見や要望は、申し送り時などに口頭で伝えたり、申し送りノートに記録したりして職員全員で共有している。管理者は家族を交えてお月見会を開催し、家族同士を含めた意見交換できる場を設けたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努めている。場合によっては代表者にも伝えている。 (外部評価) 月1回併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で職員会を開催し、職員から意見や提案を聞く機会としているが、開設して約1年のため、まだまだ意見や提案は少ない状況である。今後、管理者は事業所単独での職員会議の開催を検討している。また、日頃から管理者は職員が意見を言いやすい関係作りに努めており、職員と管理者は強い信頼関係ができつつあり、職員は直接日常業務の中で意見を伝えることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 状況を把握し、環境の整備ができるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) なるべく研修に参加できるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内の同業者との交流を積極的に行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し、信頼関係が築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、家族の希望や思いを十分聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時には暫定ケアプランを策定し、必要な支援が提供できるよう努めている。 利用者と職員は話をする機会が多く、1対1で話すことも少なくない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の話し合いを大切にし、生活の場として暮らしていただけるよう心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族来所の際は、情報提供を心掛けている。良いことも悪いこともありのままお伝えすることが信頼にもつながっているように思う。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方や近所の方の面会はしばしばある。でかけていくことは現在あまりできていない。 馴染みの場所・言葉・方言などの話題を提供し傾聴することで関係継続の支援になることもある。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係などの情報を聞いて把握し、職員間で共有している。日常会話の中で聞いた新たな情報は追加して記録している。知人が面会に訪れることもあり、ゆっくりしてもらえよう配慮している。また、生活に慣れてきた利用者同士や職員との新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が良好な関係でいられるよう、職員が潤滑油となるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて継続的に支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく一人ひとりの意向や気持ちを把握できるよう努めている。利用者様の気持ちがわからないときは本人の気持ちになって考えるようにしている。	
			(外部評価) 日常会話の中で聞いた言葉を大切に聞き取り、思いや意向を把握するよう努めている。聞き取った情報は記録し、職員間で共有できるよう努めている。思いを言い表しにくく把握が困難な利用者には、家族から情報を聞いたり返答しやすい声かけを工夫したり、利用者の様子や表情を見て判断するなど、利用者本位のサービスが提供できることを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。面会の方には気持ちの良い挨拶や飲み物の提供をし、落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員間での話し合いはできているが、今後は家族を交えて、担当者が介護計画の一連を実施できるようにしたい。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの思いや意向に沿って、介護計画を作成している。経過記録に介護計画に沿ったサービス実施状況を記録することができ、月1回のモニタリングを行い、評価をしている。利用者の状況に応じて、10か月、3か月、1か月で介護計画の見直しをしている。また、介護計画は家族の面会時に説明して確認をするほか、面会の少ない家族には毎月の請求書の送付に合わせて、意見欄を設けた書類を同封し確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランにそった記録を心掛けており、モニタリングに役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて柔軟な対応ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ご家族の面会は多く、外出などもできている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 在宅でかかっておられた医師に継続して診てもらえるよう 支援している。受診時には情報提供を心掛けている。</p> <p>(外部評価) 元々のかかりつけ医を継続して受診することができる。受 診は家族の同行を基本としており、受診の際には日頃のバ イタルや身体状況を書面にして受診してもらい、受診情報 は必ず報告してもらうなど情報を共有し、利用者が安心し て適切な医療を受けられるよう支援している。また、協力 医とは24時間体制での連携が取れており、利用者や家族の 要望に応じて診てもらえることができるなど、利用者や家族 は安心感がある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 異常や心配があるときは、看護職員に相談できる体制がで きておりスムーズに医療につなげられている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院した場合も病院の連携室と連絡をとり、スムーズに退 院できるよう心掛けている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時に終末期の意向確認をしている。実際に重症化した 場合は、家族・医師・職員とで方針を決定し支援させてい ただいた。</p> <p>(外部評価) 「終末期の生活支援」を作成し、看取りを実施していく方 針を利用者や家族に説明し、入居時に意向を確認してい る。事業所では医療関係者や家族及び職員が連携を図り、 経験のある職員が他の職員を指導しながら、今までに1名 の看取りを経験している。今後も利用者や家族の意向に応 じて、安心して最期を迎えられるよう支援していく予定で ある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員によって実践力にはバラツキがある。徐々に施設内研修を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行っているが、夜間の訓練は未実施である。地域の防災訓練に職員が参加したが、具体的な地域との協力体制にまで至っていない。 (外部評価) 年2回昼間を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署に協力してもらい、アドバイスをもらっている。区長や民生委員に入ってもらった緊急連絡網を整備しており、緊急時の地域との協力体制を築いている。また、協力者に事業所の建物内を見学してもらう予定としており、より強固な協力体制を築いていくことを検討している。また、水や食料品、オムツなどの備蓄品を用意している。	開設して1年ではあるが、今後は夜間を想定して避難訓練を実施するなど、利用者が安心安全に暮らし続けられる取組みを期待したい。災害発生時の対策や行動方法などを職員全員で話し合ったり、自主的な訓練も含めて繰り返し行うことを期待したい。また、地域の協力者に参加してもらい一緒に訓練できることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。 (外部評価) 「着替えは居室内で行う、排泄時は必ずドアを閉める」など、利用者の羞恥心に配慮した対応をしている。名前は名字で呼ぶことを基本としているが、親しみのある呼び方をする場合もあり、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が話しやすい雰囲気づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望をうかがうようにしているが、入浴などは職員の都合で決めさせていただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に理容師さんに来てもらっている。日々の身だしなみについてはおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 時に利用者さんに食べたいものを聞いたりしている。テーブル拭きや食器の片づけなどできることをしていただくよう心掛けている。 お誕生日にはお寿司と手作りのケーキでお祝いし、喜ばれている。	
			(外部評価) その日にある材料を見て、職員が臨機応変にメニューを考えて調理をしている。買い物は管理者がすべて行い、調理師や栄養士の資格を持つ職員が調理内容を確認して、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者のその日の状態に合わせて、一口大や刻み食、ミキサー食など食べやすい食事形態にも配慮している。誕生日は利用者の好みをメニューに取り入れ、手作りケーキでお祝いしており、利用者の楽しみの一つとなっている。また、回転ずしなどの外食もできるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂食状態に応じて食事形態を変えている。また、使いやすい食器の工夫もしている。水分がとりにくい方にはゼリーにしたり嗜好品を提供したりしている。栄養士・調理師に栄養相談をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施している。うがいができない方はガーゼで拭う等工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 入居時に排泄パターンの把握に努め、その人に合ったトイレ誘導を行っている。なるべくトイレで排泄できるようケアプランにも位置づけ実践している。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけで誘導してトイレでの排泄を支援している。24時間オムツ使用者はいないが、日中夜間、また利用者の状態に合わせて排泄用品を選択している。トイレ誘導することでオムツから紙パンツ使用となり、また立位が取りやすくなる等、自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることで便秘予防に努めている。必要に応じて下剤は使用するが、できるだけトイレで排便できるようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴については、職員の都合で予定している。が、無理強いはせず希望をうかがい楽しんで入浴できるよう心掛けている。必要に応じて臨時に入浴したりもしている。</p> <p>(外部評価) 冬は3日に1回、夏は2日に1回を基本として入浴することができる。利用者の入浴可能な曜日を決めているが、午前や午後の入浴時間の要望に合わせて自由に入浴できるよう支援している。事業所には個別浴槽と機械浴槽があり、状態に合わせて使い分けるなど、安心安全に気持ち良く入浴できるよう支援している。また、入浴を嫌う利用者には職員が交代をしたり声かけを工夫したりするなど、無理強いをしない入浴を支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 個々の希望に応じて日中も居室で休んでいただいている。夜間の睡眠の妨げにならないよう適度な休息を心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の際には声出し確認をすることになっている。個々の薬の作用については個人差があり今後研修していく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々笑って過ごせるよう、気分転換ができるようレクリエーションや室内の飾りなどを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方が外出支援をしてくださることがある。自宅が近くの方は、散歩のときに家まで行くこともある。暖かい時は駐車場にでて地域の方との交流もできた。 (外部評価) 気候や天気のいい日には、事業所周辺を散歩している。地元の利用者は散歩の途中に自宅に立ち寄ることもある。暖かい日には駐車場を活用して、行事など地域住民とふれあうことができるよう支援している。家族に協力してもらい、自宅に帰ったり外食や受診など外出できるよう支援している。利用者からの外出希望は少ないが、春はお花見を予定したり、外食に出かけたりできるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様に手紙が来たときは、代読したり返事を書くよう支援したりした。本人の希望があるときは家族に電話をかけて話していただくこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節感のある壁面飾りや置物をおくようにしている。壁面は利用者さんと作成するようにしている。共用の場所は毎日掃除をして気持ちよく過ごせるよう心掛けている。夏場は天窓にすだれをかけ、季節の飾りをしている。 (外部評価) 階段を挟んで各ユニットが左右対称で、居室で囲んだ中心部にはリビング・ダイニングがあり、日中は利用者がリビングに集まり過ごせる時間を大切に考えた構造となっている。状況に合わせて机や座席の配置を変え、利用者が落ち着いて安心して過ごすことができるよう配慮している。職員は事業所内の掃除を毎日行い、清潔な環境保持に努め、季節毎に利用者と一緒に作成した飾りつけをするなど、気持ち良く過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルの席に座っていることが多いが、ソファはお互いが譲り合って利用している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具がある方は持ってきていただいている。個室は自由に飾り付けしていただいている。 (外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが常備されている。利用者はテレビや使い慣れたイス、タンス、衣装ケースなどのほか、本や家族の写真などを持ち込み、家族と一緒に配置や飾りつけを行い、居心地良く過ごすことのできる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 構造上、居室の窓は全開しないようストッパーを取り付けている。 リビング内のトイレには張り紙をして迷わないようにしている。利用者さんの能力に応じて居室の戸に名前を貼っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500094
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホームひまわりのたね
所在地	伊予郡松前町昌農内347-1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けています。利用者様のできることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行くようにしています。利用者様の笑顔がみられるよう、精一杯の努力をしたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年4月に開設した事業所は田園に囲まれ、静かで季節の移ろいを感じる。特に麦の実りの頃は一面が黄金色に輝き、窓から素晴らしい景色を眺めることができる。事業所の近くには中学校や郵便局があり、生徒や地域住民の往来も多くみられる。事業所のある建物には小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、既に町内で運営しているグループホームの経験を活かしながら地域との交流に努めている。管理者は経験豊富で「利用者のペースに合わせてのんびり過ごすことができ、1日1回でも大きな声で笑えるように支援していきたい。」と考えており、職員が一丸となって利用者の日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりのたね

(ユニット名) 柿

記入者(管理者)
氏名 松田加代子

評価完了日 27年2月22日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 焦らず、怒らず、諦めずの理念を基本に優しい介護の実践に努めている。	
			(外部評価) 法人の理念を基にして、開設時に職員間で話し合い、事業所独自の理念を作成している。理念はリビングに掲示し、日々の業務の中で職員同士で確認し合っている。また、カンファレンスで振り返りを行い、共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設の行事に地域の方をお招きし、地域の行事には利用者とスタッフが参加できるよう努めている。 散歩のときなど地域の方に「お疲れさん」と声をかけていただくこともある。	
			(外部評価) 自治会に加入し、回覧板で地域の行事などの情報を得ることができている。気候や天気の良い日には事業所周辺へ散歩に出かけ、地域住民と挨拶や会話を交わしている。事業所で初めて開催した夏祭りに地域住民に参加してもらったり、クリスマス会には小学生の訪問があったりするなど交流を広めている。どんと焼きなどの地域行事に参加したり、地域の防災訓練に参加協力もしている。また、民生委員の紹介で利用者と一緒にサロンに参加するなど、積極的に交流するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の中で、スタッフが利用者の介護を行うことが認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、ホームの活動報告と活動計画、事故など様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上にかけるよう心掛けている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、区長、民生委員、町担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。会議では、事業所の活動内容や行事予定を報告し、参加者と意見交換をしている。今後管理者は会議への家族の参加を呼びかけ、事業所の取組み等について意見をもらい、サービス向上に活かしたいと考えている。	会議には一人でも多くの家族に参加してもらい、利用者の生活状況や事業所の取組みの理解を促し、家族の立場から積極的な意見をもらい、サービス向上に活かせる取組みを期待したい。また、勤務シフトを工夫するなど順番に職員が会議に参加し、学びの場としても活用されることを期待したい。さらに、多方面からの意見をもらえるよう近隣住民など幅広く参加を呼びかけたり、参加できなかった方にも分かりやすい議事録を作成したりする取組みを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村とは連絡を密にし、困ったときは助けていただいている。	
			(外部評価) 町保険課や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に毎回参加し、情報交換をしている。開設して約1年のため、介護保険制度など不明な点がある場合には町担当職員に確認し、助言をもらうなど協力関係を築けるよう努めている。地域包括支援センター主催の「プチ自慢大会」に参加を予定している。また、毎月介護相談員の訪問があり、利用者と話をしたり事業所内を見たりして意見をもらうこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員全員が理解できているとはいえ、今後勉強会をする必要がある。2階であり、戸口の向こうに階段があるため、場合によって入口の施錠をしている。	
			(外部評価) 事業所は建物の2階にあり、フロアを出てすぐに階段があり危険なため安全面を考え施錠することがある。管理者は介護業務の経験の浅い職員がいるため、職員全員で身体拘束について理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいくことを考えている。	職員全員で身体拘束の内容と弊害を理解するため勉強会を実施したり職員間で話し合いをしたりするなど、身体拘束をしないケアへの取組みを期待したい。また、利用者の安全面を配慮しつつ、見守りを強化するなど自由な暮らしを支援するための工夫をすることを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できているとはいえないが、職員間で防止に努め、虐待や不適切な対応はない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がなく、難しい問題であり今後学習していく予定。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行いご理解いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望については、施設内で速やかに対応するよう心掛けている。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけて利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くよう努めている。必要に応じて家族に電話する時にも意見や要望を聞いている。家族から出された意見や要望は、申し送り時などに口頭で伝えたり、申し送りノートに記録したりして職員全員で共有している。管理者は家族を交えてお月見会を開催し、家族同士を含めた意見交換できる場を設けたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 管理者は、日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努 めている。場合によっては代表者にも伝えている。 (外部評価) 月1回併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同 で職員会を開催し、職員から意見や提案を聞く機会として いるが、開設して約1年のため、まだまだ意見や提案は少 ない状況である。今後、管理者は事業所単独での職員会議 の開催を検討している。また、日頃から管理者は職員が意 見を言いやすい関係作りに努めており、職員と管理者は強 い信頼関係ができつつあり、職員は直接日常業務の中で意 見を伝えることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 状況を把握し、環境の整備ができるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) なるべく研修に参加できるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内の同業者との交流を積極的に行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し、信頼関係が築けるよう努めて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、家族の希望や思いを十分聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時には暫定ケアプランを策定し、必要な支援が提供できるよう努めている。 利用者と職員は話をする機会が多く、1対1で話すことも少なくない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の話し合いを大切にし、生活の場として暮らしていただけるよう心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 各利用者様のできる範囲で体操をしたりレクリエーションを行い、ご家族来所時には一緒に参加していただいたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方や近所の方の面会はしばしばある。でかけていくことは現在あまりできていない。 馴染みの場所・言葉・方言などの話題を提供し傾聴することで関係継続の支援になることもある。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係などの情報を聞いて把握し、職員間で共有している。日常会話の中で聞いた新たな情報は追加して記録している。知人が面会に訪れることもあり、ゆっくりしてもらえよう配慮している。また、生活に慣れてきた利用者同士や職員との新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が良好な関係でいられるよう、職員が潤滑油となるような支援に努めている。 食事やおやつは利用者みんなで食べていただき、同じテーブル同士で声を掛け合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて継続的に支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく一人ひとりの意向や気持ちを把握できるよう努めている。情報を得るためにご家族の協力をいただいている。 (外部評価) 日常会話の中で聞いた言葉を大切に聞き取り、思いや意向を把握するよう努めている。聞き取った情報は記録し、職員間で共有できるよう努めている。思いを言い表しにくく把握が困難な利用者には、家族から情報を聞いたり返答しやすい声かけを工夫したり、利用者の様子や表情を見て判断するなど、利用者本位のサービスが提供できることを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。 面会の方には気持ちの良い挨拶や飲み物の提供をし、落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員間での話し合いはできているが、今後は家族を交えて、担当者が介護計画の一連を実施できるようにしたい。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの思いや意向に沿って、介護計画を作成している。経過記録に介護計画に沿ったサービス実施状況を記録することができ、月1回のモニタリングを行い、評価をしている。利用者の状況に応じて、10か月、3か月、1か月で介護計画の見直しをしている。また、介護計画は家族の面会時に説明して確認をするほか、面会の少ない家族には毎月の請求書の送付に合わせて、意見欄を設けた書類を同封し確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランにそった記録を心掛けており、モニタリングに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて柔軟な対応ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 希望される利用者様には近所の理容師さんに来てもらっている。定期的に傾聴ボランティアさんも来所されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 在宅でかかっておられた医師に継続して診てもらえるよう 支援している。受診時には情報提供を心掛けている。	
			(外部評価) 元々のかかりつけ医を継続して受診することができる。受 診は家族の同行を基本としており、受診の際には日頃のバ イタルや身体状況を書面にして受診してもらい、受診情報 は必ず報告してもらうなど情報を共有し、利用者が安心し て適切な医療を受けられるよう支援している。また、協力 医とは24時間体制での連携が取れており、利用者や家族の 要望に応じて診てもらえることができるなど、利用者や家族 は安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常や心配があるときは、看護職員に相談できる体制がで きておりスムーズに医療につなげられている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合も病院の連携室と連絡をとり、スムーズに退 院できるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の意向確認をしている。実際に重症化した 場合は、家族・医師・職員とで方針を決定し支援させてい ただいた。	
			(外部評価) 「終末期の生活支援」を作成し、看取りを実施していく方 針を利用者や家族に説明し、入居時に意向を確認してい る。事業所では医療関係者や家族及び職員が連携を図り、 経験のある職員が他の職員を指導しながら、今までに1名 の看取りを経験している。今後も利用者や家族の意向に応 じて、安心して最期が迎えられよう支援していく予定で ある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員によって実践力にはバラツキがある。徐々に施設内研修を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行っているが、夜間の訓練は未実施である。地域の防災訓練に職員が参加したが、具体的な地域との協力体制にまで至っていない。 (外部評価) 年2回昼間を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署に協力してもらい、アドバイスをもらっている。区長や民生委員に入ってもらった緊急連絡網を整備しており、緊急時の地域との協力体制を築いている。また、協力者に事業所の建物内を見学してもらう予定としており、より強固な協力体制を築いていくことを検討している。また、水や食料品、オムツなどの備蓄品を用意している。	開設して1年ではあるが、今後は夜間を想定して避難訓練を実施するなど、利用者が安心安全に暮らし続けられる取組みを期待したい。災害発生時の対策や行動方法などを職員全員で話し合ったり、自主的な訓練も含めて繰り返し行うことを期待したい。また、地域の協力者に参加してもらい一緒に訓練できることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。 (外部評価) 「着替えは居室内で行う、排泄時は必ずドアを閉める」など、利用者の羞恥心に配慮した対応をしている。名前は名字で呼ぶことを基本としているが、親しみのある呼び方をする場合もあり、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が話しやすい雰囲気づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望をうかがうようにしているが、入浴などは職員の都合で決めさせていただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に理容師さんに来てもらっている。日々の身だしなみについてはおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 時に利用者さんに食べたいものを聞いたりしている。テーブル拭きや食器の片づけなどできることをしていただくよう心掛けている。 お誕生日にはお寿司と手作りのケーキでお祝いし、喜ばれている。	
			(外部評価) その日にある材料を見て、職員が臨機応変にメニューを考えて調理をしている。買い物は管理者がすべて行い、調理師や栄養士の資格を持つ職員が調理内容を確認して、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者のその日の状態に合わせて、一口大や刻み食、ミキサー食など食べやすい食事形態にも配慮している。誕生日は利用者の好みメニューに取り入れ、手作りケーキでお祝いしており、利用者の楽しみの一つとなっている。また、回転ずしなどの外食もできるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂食状態に応じて食事形態を変えている。また、使いやすい食器の工夫もしている。水分がとりにくい方にはゼリーにしたり嗜好品を提供したりしている。栄養士・調理師に栄養相談をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアはほぼ全員の習慣となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 入居時に排泄パターンの把握に努め、その人に合ったトイレ誘導を行っている。なるべくトイレで排泄できるようケアプランにも位置づけ実践している。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけで誘導してトイレでの排泄を支援している。24時間オムツ使用者はいないが、日中夜間、また利用者の状態に合わせて排泄用品を選択している。トイレ誘導することでオムツから紙パンツ使用となり、また立位が取りやすくなる等、自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることで便秘予防に努めている。必要に応じて下剤は使用するが、できるだけトイレで排便できるようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴については、職員の都合で予定している。が、無理強いはせず希望をうかがい楽しんで入浴できるよう心掛けている。必要に応じて臨時に入浴したりもしている。</p> <p>(外部評価) 冬は3日に1回、夏は2日に1回を基本として入浴することができる。利用者の入浴可能な曜日を決めているが、午前や午後の入浴時間の要望に合わせて自由に入浴できるよう支援している。事業所には個別浴槽と機械浴槽があり、状態に合わせて使い分けるなど、安心安全に気持ち良く入浴できるよう支援している。また、入浴を嫌う利用者には職員が交代をしたり声かけを工夫したりするなど、無理強いをしない入浴を支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 個々の希望に応じて日中も居室で休んでいただいている。夜間の睡眠の妨げにならないよう適度な休息を心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の際には声出し確認をすることになっている。個々の薬の作用については個人差があり今後研修していく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々笑って過ごせるよう、気分転換ができるようレクリエーションや室内の飾りなどを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方が外出支援をしてくださることがある。自宅が近くの方は、散歩のときに家まで行くこともある。暖かい時は駐車場で地域の方との交流もできた。 (外部評価) 気候や天気のいい日には、事業所周辺を散歩している。地元の利用者は散歩の途中に自宅に立ち寄ることもある。暖かい日には駐車場を活用して、行事など地域住民とふれあうことができるよう支援している。家族に協力してもらい、自宅に帰ったり外食や受診など外出できるよう支援している。利用者からの外出希望は少ないが、春はお花見を予定したり、外食に出かけたりできるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様に手紙が来たときは、代読したり返事を書くよう支援したりした。本人の希望があるときは家族に電話をかけて話していただくこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節感のある壁面飾りや置物をおくようにしている。壁面は利用者さんと作成するようにしている。共用の場所は毎日掃除をして気持ちよく過ごせるよう心掛けている。夏場は天窓にすだれをかけ、季節の飾りをしている。 (外部評価) 階段を挟んで各ユニットが左右対称で、居室で囲んだ中心部にはリビング・ダイニングがあり、日中は利用者がリビングに集まり過ごせる時間を大切に考えた構造となっている。状況に合わせて机や座席の配置を変え、利用者が落ち着いて安心して過ごすことができるよう配慮している。職員は事業所内の掃除を毎日行い、清潔な環境保持に努め、季節毎に利用者と一緒に作成した飾りつけをするなど、気持ち良く過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルの席に座っていることが多いが、ソファはお互いが譲り合って利用している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具がある方は持ってきていただいている。個室は自由に飾り付けしていただいている。 (外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが常備されている。利用者はテレビや使い慣れたイス、タンス、衣装ケースなどのほか、本や家族の写真などを持ち込み、家族と一緒に配置や飾りつけを行い、居心地良く過ごすことのできる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 構造上、居室の窓は全開しないようストッパーを取り付けている。 リビング内のトイレには張り紙をして迷わないようにしている。利用者さんの能力に応じて居室の戸に名前を貼っている。	